

第9回ライブラリーカフェ開催

2017年12月7日 於 オープンスペース

本学の先生を講師にお迎えし、コーヒーを片手に気軽な雰囲気、研究の話題やご自身のことなどを語っていただく催しがライブラリーカフェです。今回は「スケールから考える建築」と題し、建築学科の竹内宏俊先生を講師にお迎えし、お話をいただきました。



学生からは「皆が知っているものと絡めて話されていたのが面白く親近感がわいた」などの声が寄せられました。

入館ゲートが新しくなりました

2018年2月13日より稼働開始

LCセンター正面玄関には入館ゲートが設置されています。駅の自動改札のように学生証をかざして入館します。学生証を忘れた方は、正面入口のインターフォンで申告してください。リモートでゲートを開きます。



夜間の入口ゲート

また、レストラン側にも西側ゲートが新設されました。お食事後にLCに入館する際は、学生証が必要になります。忘れずにご持参下さい。

日本工業大学LCセンター ニュースレター

息抜きの散歩道 Vol.9

編集・発行/日本工業大学LCセンター 〒345-8501埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 <http://lib.nit.ac.jp>

特集：本を選ぶ

図書館に来たけど、読みたい本がなかった。そんな経験ありませんか？
でも、諦めるのはまだ早い！図書館に置いてほしい本を自分で選ぶことができるのです。

LCセンターでは週に1回、**選書会議**で購入図書を選んでいきます。書評や様々なカタログツールを用い、一定の基準に従って図書を選んでいきます。



選書ツールの一例

ですが、カタログ選書では、実物や中身を確認できないという弱点があります。また、学生の視点が不足しがちという課題もあります。

選書ツアー



選書ツアーの様子

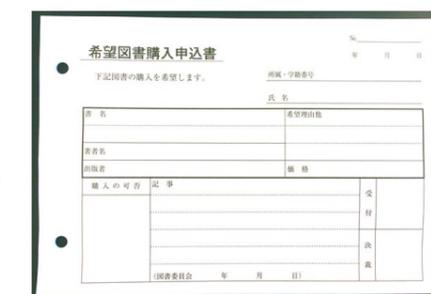
その2つの課題を解決するイベントが選書ツアーです。本学では2015年秋にスタートし、毎年秋に開催しています。参加学生は、書店に出向いて手にとって、購入したい本を選ぶことができます。購入費はLCセンターが負担します。参加資格は、**ライブラリーサポーター (LS)**の登録者、またはLCセンターの院生アルバイト勤務者。

LSは、LCセンターのボランティアです。ただいまメンバーを募集中です（応募要項は4面をご覧ください）。なぜ参加資格を設けるのか。それは「大学図書館にふさわしい本」を選ぶには、図書館やLCセンターについて理解し、より親しんでいる学生が適任であると考えからです。たとえば、貸出対象外の雑誌やDVDなどは選書ツアーの対象外ですし、小説や実用書は公共図書館に所蔵が多く、理工系の大学では購入を控える傾向があります。しかし、学生のニーズに応える選書ツアーでは、1人あたり数冊程度は小説や料理本などの実用書もOKにしています。学生が選書した図書は特集展示で貸出されます。利用率は高く、同じ学生が選んだため毎回好評です。過去の選書ツアーの図書リストは、LCセンターの「**ブックログ**」より「先生と先輩がすすめる本」をご覧ください。

本のリクエスト

「選書ツアーに参加できないけど、特定の図書やDVDを入れてほしい」そんな時は、**希望図書 (リクエスト)**をご利用下さい。2階カウンターに備付けの「希望図書購入申込書」に必要事項を記入して、カウンターに提出して下さい。希望図書では、図書だけでな

く、視聴覚資料 (DVD,ブルーレイなど) もリクエストできます。ただし、雑誌は年間購読のためリクエストできません。ご注意下さい。



希望図書購入申込書

ちなみに、LCセンター正面入口に設置している「目安箱」に無記名で図書や雑誌のリクエストをする例がとて多ですが、**目安箱での図書館資料のリクエストは絶対に通りません**。ご注意下さい。LCセンターへの提案などは大歓迎です。

最後になりましたが、あなたが選んだ図書を、未来の利用者が手に取るかもしれません。皆さんも私たちと一緒に図書館を育ててください。ご利用お待ちしております。



本・雑誌等のリクエスト不可

ライブラリーサポーターを募集しています

LCセンターをより魅力的な場所にするため、「学生目線」でお手伝いして下さる方を募集します。本が好き、図書館が好き、大学生活を充実させたい方など、たくさんのご応募お待ちしております。

応募資格: 本学に在籍する学部生・院生 (学科・学年不問) 無償ボランティアでの活動となります。

活動期間: 年度単位。月1回程度のミーティングイベントや作業中はその都度集まります。

活動内容: ライブラリーカフェ等イベントの企画、及び運営 LCセンターの活動への提言、選書ツアーへの参加

応募方法: LCセンターにて配布の応募用紙を2Fカウンターに提出



ライブラリーカフェ受付

選書ツアー

LCセンター2階特集展示

4/9~5/12 「新生活特集」
新入生をはじめ、新たな学期になにか始めてみたい方に。

5/14~6/23 「先生と先輩がすすめる本」
250文字ブックレビューの紹介図書を中心に展示します。

青塔春号を発行しました。



春号は、大学生活や研究テーマを中心に、主に退任の先生方にご寄稿いただきました。LCセンター内で配布しています。ご自由にお持ちください。リポジットでも公開中です。

開館カレンダー

2018年 4月 April							5月 May							6月 June							7月 July						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28	27	28	29	30	31	24	25	26	27	28	29	30	22	23	24	25	26	27	28		
29	30												29	30	31				29	30	31						

通常開館日	9:00-20:30	休館日	日曜・祝祭日・本学休業日	短縮開館日	9:00-17:00	午後開館日	13:00-17:00
-------	------------	-----	--------------	-------	------------	-------	-------------

貸出ランキング

集計期間：2017年10月1日～2018年3月31日

- 『フィードバック制御入門 (システム制御工学シリーズ; 3)』 杉江俊治, 藤田政之/共著 コロナ社/刊 (12回)
- 『シーケンス制御技術』 小野孝治 [ほか] 共著 産業図書/刊 (11回)
- 『シーケンス制御工学:新しい理論と設計法』 電気学会通信教育会/著 オーム社/刊 (11回)

電車で、カフェで、ページをめくっているあの人は、どんな本を読んでいるのでしょうか？

250文字ブックレビュー

先生のオススメ本から、新たな扉、開いてみませんか。

『人工知能はどのようにして「名人」を超えたのか？』 山本 一成/著 ダイヤモンド社/刊

007.1
Y 31

配架場所：3階

いま人工知能（AI）がブームです。以前のブームでは期待されたほどの成果が出ませんでした。その後、機械学習の中でもディープラーニングがブレイクスルーとなり様々なところで成果が出ています。例えば、将棋や囲碁などでAIが人間（名人棋士）に勝利したことは有名な話です。この本では、名人棋士に勝利したAI将棋プログラムを開発した著者が、どのようにしてAIが名人に勝る知能を得ることができたのかを分かりやすく書いています。また、AIの黒魔術やAIが知性を獲得したら、などの話もとても面白いです。

高瀬 浩史（電気電子通信工学科）

『クリエイティブの授業』 オースティン・クレオン/著 実務教育出版/刊

934
KI 4

配架場所：8階

ものづくりに興味ある人には一度は目を通してもらいたい本です。原題を直訳すると「アーティストのように盗め!」。著者もアーティストなので、かっこいい手書き文字のページも多い、楽しい本です。内容も、偉い人が顔をしかめそうなはっちゃけたクリエイティブ論で、「できるまではできるフリ」とか、「よい盗み方と悪い盗み方」「ゴミからはゴミしか作れない」「天才の隣に立つ」といった、身もふたもないけど、ものづくりや研究で行き詰まっている時には役に立つ部分が満載です。また、なぜか最後のページは、落書きスペースです。

細田 彰一（機械工学科）

『その数式、プログラムできますか？』 Alexander A. Stepanov[ほか]/著 翔泳社/刊

007.64
St 5

配架場所：3階

プログラムと数学は切り離せない関係にあります。これは、その基本的な考え方が数学から来ているためだと思われます。この本では、よく知られたアルゴリズムから、ちょっと数学の知識が必要になるものまで幅広く解説しています。また、ただコードを示し、動作を説明するだけではなく、その考え方に至った歴史的背景や数学者についての話もあり、非常に興味深いものとなっています。すでにある程度のプログラムが作成できる人を対象とした内容になっていますので、プログラミング手法について学ぶ第一歩になるのではないかと思います。

進藤 卓也（電気電子通信工学科）

『エンジニアの成長戦略』 匠 習作/著 日本実業出版社/刊

507
Ta 74

配架場所：5階

エンジニアとして社会人となってから必要となることについて書かれた本です。ただし具体的な方法や答えが書かれているわけではありません。あくまで考え方のヒントが書かれています。エンジニアは専門知識だけを追い続けがちですが、将来のことを考えて別の分野の知識を積極的に身に付けたり、大きな視点に立ってその技術の将来性を考えたりする必要があります。今は大学を卒業することで手一杯かもしれませんが、卒業後に少し立ち止まってゆっくりこのあたりのことを考えてほしいと思います。いずれ必要となることがあるでしょう。

田村 仁（ロボティクス学科）

『Mr.トルネード 藤田哲也 世界の空を救った男』 佐々木 健一/著 文藝春秋/刊

289.1
Sa 75

配架場所：3階

世界的に有名でも日本国内では無名だという人は多い。本書で語られている藤田哲也も、その一人であろう。Mr.トルネードの異名をもつ気象学者であるが、藤田博士の最大の功績は、マイクロバーストと呼ばれる極小地域で発生する急激な下降気流の解明である。その解明に原子爆弾の被害調査が役立ったというのは悲しい話だが、マイクロバーストを解明する過程は、まさに科学者とはこういう人をいうのだというお手本である。研究者の端くれとして襟を正しながら、そして航空機の利用者として感謝をささげながら一気に読み終えた。

神林 靖（情報メディア工学科）

『福澤諭吉 その報国心と武士道』 西部 邁/著 中央公論社/刊

289.1
N 81

配架場所：3階

去る1月21日、多摩川に身を投じた西部邁先生の旧著。個人主義や民主主義を啓蒙した開明的思想家としての福澤像が、戦後知識人達の色眼鏡を通した虚像であることを丁寧に論じている。一方で明らかにされるのは、列強の脅威に臨んで独立自尊を掲げ、伝統に根ざした良識を頼りに西洋文明に向き合い、あるべき日本人の振る舞い方を追求する福澤の姿である。再び危機にある中、未だに色眼鏡で見える世界を疑わずに自立と実践的思考を避け、著者が愛想を尽かすほど亡国の道を猛進する我国の来し方と行く末を見つめ直すためにも一読されたい。

安野 彰（建築学科）

『オリクスとクレイク』 マーガレット・アトウッド/著 早川書房/刊

933
A 95

配架場所：8階

この物語は人類が滅亡した後から始まる。なぜ人類は滅亡したのか、それを知っているのは唯一の生き残りである「スノーマン」のみ。いま彼は緑色の皮膚で光合成する人間型の生物「クレイカー」達と森で暮らしている。現在と過去が交錯する彼の語りで徐々に明らかになるのは、行き過ぎた経済至上主義によってパンドラの箱が開かれ、世界が破滅した経緯だ。制約のない科学研究により、胴体だけの鶏や人毛を生やす羊が創られ、永遠の若さも金で買える…そんな世界を滅亡させたのはある天才の恋だった。人間と科学の関係を問う近未来SF小説。

山中 章子（共通教育系）